



仏法領ぶつぱうりょう 第六十三号

発行：真宗大谷派
念信寺
☎ 0930-42-0329
Fax 42-0502
ホームページ
nenshiji.org

私たち便りや心地よさを追い求め、豊かさを経済で計る流れの中にどうぶりとつかりています。意識・身体の全体を感じ、考えることが少なくなりつつあります。

下は、最近話題になった京都、

仏光寺の掲示

自我

春節というのは、日本で言う旧正月（2月初旬）のことだそうです。寒が一番厳しくなりカビも生えにくいで、アラレなどのために年配の方は「寒餅」を撞いたもので、いよいよ春が来るのだと、寒の中に春を感じていたのでしょうか。

寒餅のような生活習慣や行事も少なくなり、現在の私たちは先人比べ、身体を通して季節を感じる力が格段に劣っています。「いのち」を感じる力が弱くなつたということでしょう。そうして「自我」という自意識と計算（分別）が強くなつてゐるのでしよう。

わたしの背後、おかげさま
仏教で年齢は「行年」「寿算」と言い、数え年です。生まれた時には一歳で、正月で歳を数えます。

正月で皆が一緒に歳を取るというのは、自然のいのちとわがいのちの一体感、「共なるいのち」という実感の上に成り立つ感覺でしょう。「いのち」は、我がものではなく、いただきもの、賜つたものです。「我」の思い、一杯だと見えなくなります。

支えられ、生かされているといふこと、今こにある不可思議です。

恩を知るとは わたしを支えてくれる無数のいのちに であう」と

わが身を支えてくれている背後の大きな世界に気づかないがゆえに、限りある「の身、

眼前の小さな しあわせは 見えて見えない 背後の大きな おかげさまが 見えない

この生涯をいたたくことが出来ないのです。

今、身近に過疎化・高齢化が進行しています。大変なことには違いありませんが、いのちの全体を回復する歩みこそが、本当の豊かさをもたらすのではないでしょう。眼の前ばかり見るのではなく、背後の大きな世界に眼を転じてゆきたいものです。

いのちの息吹

あちこちに春を感じられるようになりました。ちょうど前のことですが、中国人観光客の春節の休みを利用した爆買いツアーが話題になりました。

毎月1～2件の非農地証明※申請が出る、その度に農業委員として現地調査に行く。調査地域は7割程度山間地である。車で行けるときはまだいいが、急斜面を上り木々を払い除けながら進むと、以前農地であったであろう石垣を積んだ平地が現れます。

それが無ければ、つまらん教師にうつとおしい生徒、うるさい上司に気のきかん部下、でおわつてしまふ

に自分の欲求にせわしなく突き動かされていて、自分が苦の原因を作つていて、氣づこうとせず、苦の解消を外に求めます。
まことふたつに分ける会う人を通して自分に遭遇する

板の言葉

あいにくの雨 めぐみの雨
自我の思いが ひとつのみの雨を

故郷の荒廃・過疎化

※非農地証明とは、登記簿上の地目が田又は畠の土地について、所有権移転等の登記をする場合に農地法の許可があつたことを証する許可証です。



◆お斎その後の経緯と実際◆ ◆他寺のお斎も見学!◆

ご正忌お斎の現状と問題について、本寺報、平成14年11月号で担当者の視点から意見を書かせていただきました。その後これといった反応もなく少々心配でした。しかし一年後、今年度のご正忌ではその心配は全く杞憂に終わりました。予想をはるかに上回る成果を得ることが出来たからです。

*ご正忌までの約一年間、世

話人会、総代・責任会から女性世話人だけの集会を各々一回実施、お斎を総代夫人のみに負担がかかるないチーム作りを目指し、リーダーは上高屋からという女性会議の意向もあり、経験豊富な、S・Tさんが推され、無理をいつてお引き受けいただいた。お斎委員は上高屋から2名、他集落から3名の方に半ば強引にお願いした。委員の打ち合わせは「ご正忌前に2回、ご正忌後に1回評価・反省を行つた。



念信寺のお斎を毎年召し上がる方は分かるかと思いますが、外見上は例年ど殆ど変りません。しかし、実際はかなり時間や労力が軽減されています。

具体的に工夫した主な点は、①ミ

ティングではリーダーが加勢の人達に当日の予定、作業内容、留意点等を丁寧に説明。②お斎委員（以下委員）が役割分担し加勢人と共に作業。③お寺の内外の清掃を行う。④料理の量は、残りが出ないよう計画的に作成など。

例年の作業内容とほぼ同じですが、委員がリーダーシップを取ってくれたのでメンバー（加勢の人）も動きやすかったのではないでしようか。皆さんの動きがとてもきびきびしていたのが印象的でした。朝一番で境内の掃除、庫裡、内外のトイレ、客僧部屋など隅々まで綺麗にいただきました。

お斎は●献立の茶蕪麦を金時豆に変更●材料をすこし小さく切り●お椀へ盛る量を少な目にした。小食の人には丁度良くても大食の人には少し物足りなかつたかも知れません。

ちなみに私は味噌汁とご飯のお代わりをし、お隣の方にもお代わりを勧め一緒に美味しくいただきました。今回、残食は殆どなかつたそうです。

*大連夜で、小豆のおこわむすびの夜食が振る舞われるのを皆さんご存じでしょうか？（写真はおこわむすび）今回初めて参加した人達は、思いがけない美味しいおむすびに大喜び。大連夜未体験の人は、少し夜遅いけど頑張って参加してみる価値ありますよ！



ところで、他のお寺のお斎はどうな

つているのだろ？

先日、他寺のお斎を覗いてみようと思いつら急遽、住職が懇意にしている

つてゐるのだろ？

前号で掲げた一人

八幡西区の西法寺（本

願寺派）のご正忌へ委員有志3名・住職・坊守連れだつてお参りしました。お斎の会場は門徒会館でイス席。器

弁当箱。お椀ではなく木のお

建物がまだ新しく、台所は床続きの隣室で動線が短い。イスは離着席やお給仕がしやすい。お世話係の女性陣は、会長は20年以上、他の有志の人達も大体10年前後お世話を続けているそうです。坊守さんのお話では、器はボリのパックを使用したり変遷を重ね、今の形に落ち着いたとのこと。色々工夫されていることが伺えた。色々な面で、スマートで都会的な感じを受けた。念信寺とは環境やご門徒の特性が異なるので單純に真似はできませんが、参考になる部分は検討したいです。



お寺でイベント!

昨年の御正忌・報恩講（11月21日）は、多くのイベントを行いました。23日夜はお勤めの後、「御伝珍」、藤城さんによる講話「結界」、野口クリニック院長による地域医療の課題についてなどです。

24日は、多くのイベントを行いました。23日夜はお勤めの後、「御伝珍」、藤城さんによる講話「結界」、野口クリニック院長による地域医療の課題についてなどです。



現代舞踊 藤城道博さんのコメント

この度は、長い歴史のあるお寺で、踊ることが出来た事に感謝しております。

とても神聖な場所で、そして幻想的な雰囲気の中、身体の感覚が研ぎ澄まされるような経験が出来ました。ありがとうございました。





今回は北九州市戸畠区
在住のYさんを
ご紹介いたします。

Yさんは昭和十二年の生まれで、御年七十八歳ということです。

Yさんは長年戸畠に住んでいらっしゃるが、ご出身はみやこ町伊良原の下伊良原地区だそうです。

現在大規模なダム造成工事中の真つただ中にお住まいだったそうで、やはては湖底に沈み、住居跡も見られなくなるわけです。Yさんは中学時代までは伊良原で過ごし、その後は親の手伝いをしていたが、仕事を求めて都会に出たそうです。

そのためか、Yさんの望郷の念は非常に強いものと感じられた。読まれる新聞は「西日本新聞」。なぜ西日本新聞かといえば、本新聞かといえ、北九州に居ても死者広告欄に京築地方の死亡者の名前も載らなかったそうです。他の新聞では京築地方の死亡者の名前は載らないそうです。

親類縁者、隣家・地域の人々、友人知人はまだたくさんいるから消息の知れることは大変重要なことだということです。

室生犀星に「ふるさとは遠きにありて思ふもの、そして...」という有名な詩が



Yさん

ある。Yさんは今回の寺報「ひと」欄に登場するについてご住職より話があつたとき犀星の望郷の詩をモチーフにしてご自分で一文を草する積りであられたようです。そこに私がインタビューにお伺いしたものだから、私としては非常に申し訳ないことをしたのではないかと心苦しいものがあります。

多分、私が書くものよりもつぱで面白い文章ができたことは間違いないと思います。それに根拠があるからです。

ほんの四ヶ月前くらいいに、北九州在住で非常に著名な直木賞作家の佐木隆三氏が亡くなられた。実は、Yさんはこの佐木隆三とは非常なる親交のあつた方なのです。おなじ歳であり、佐木隆三がまだ流行作家として独立立ちしていない八幡製鐵所の広報担当者をしていた頃からの知り合い、佐木隆三とは同人誌発行仲間だったそうです。仲間の書いた文章を持ちより批評し合ったり、練り上げたりしていた仲という。したがって、文章にたいする心得は私の及ぶべくもないこと間違いなしと思います。

北九州は日本の四大工業地帯のひとつで、むかしから労働者の街でもあります。Yさんは八幡製鐵所に勤務していました。Yさんは八幡製鐵所に勤務していただけではないが、北九州を中心として政治活動、労働運動に熱中していること。

現北九州市長の北橋氏は製鐵所で労働組合運動をやっていたが、民社系から国会議員に出るに際しては名刺の配り方から指導した仲だそうです。

煙駅近くにあるファイントネスクラブにて通つて筋トレをおこなっているとのこと。通うについては車などは利用せず歩行が原則だそうです。日中は筋トレ、夜は晩酌。

これは自宅ではなく、街中で愉しむとのこと。

息子さんが近くに住んでいらっしゃるので、連絡はよくとれるそうです。

山口さんの武勇談は多くて、長くて、多彩です。とてもこの限られた紙面で表し尽せるものではありません。機会があれば、是非「仏法領」に自由投稿していただくのも寺報の幅を広げる一助になるのではないかと思います。

これからも一層健康に留意して元気で居てほしいと願うものです。

まだまだお元気と見受けられました。

息子さんが近くに住んでいらっしゃるので、連絡はよくとれるそうです。

山口さんの武勇談は多くて、長くて、多彩です。とてもこの限られた紙面で表し尽せるものではありません。機会があれば、是非「仏法領」に自由投稿していただくのも寺報の幅を広げる一助になるのではないかと思います。

まだまだお元気と見受けられました。

これからも一層健康に留意して元気で居てほしいと願うものです。

京築地方の方言

(阿部正紀・記)



テレビや携帯電話、インターネット等の普及もあって全国の方言が急速に衰退しております。私なんかは「何が好物か?」と問われれば、「鯖か鰯のぬかみそ焼き」と即答しておりますが、方言も地方独自の名物も、有名なもの以外は忘れられようとしています。(のっけから横道にそれました)

今回は、京築地方の方言や言いまわしについて取り上げてみました。



私どもには、自慢してもよい多くの表現語、方言があります。お彼岸は、先祖・先人を想う時でもありますし、一日も長く使われますよう願っています。

またの機会がありましたら、「なしか」「やおいかな」「そうちや」「いーつちや」「しもうた」「めんどしい」「おせらし」「むげねえ」等、愛らしい方言にもひろげてみたいと思っています。貴重な寺報をお借りして感謝です。

(方言にも興味をもつおいらさん)

◎きょうは、ひでーき あさからよこい よる。(今日は疲れていますので休んでいます)
◎はんこうつけち あしたきてくれない。
(都合つけて明日は来て下さい)
◎くちゃ わりいが いいひ とどな。(口は悪いが本性は良い人ですよ)
◎そげ おだつんな しりこ そばいどな。(そんなに褒めな
さんな、あまりが悪い)
◎きょうは てんきがいいけど あし たわからん。(おわかりですね)
◎ちよつとかしてくりー じきもどすき。
(ちよつと貸しておくれ。すぐに返すから)
◎ひとん さいふを おりがしつて (ち) くせ。(他人の財布を私が知るもんか)
◎そうかんぐんな うそじやねえ。(疑うなよ 嘘ではないよ)
◎すらごつ こくと しううちせんぞ。
(嘘を言うと承知しないぞ)
◎こうちくんない やすー しちょくけ。
(買つてください。安くしときます)
◎かしたなり もどさんき ぐらぐらす
(嘘を言うと承知しないぞ)
◎いちみち くりー。(訪ねてみてください)



春のお彼岸法要ご案内

まだ寒い日が続いています。皆さまいかがお過ごしですか？お彼岸の御法座を左のように開催致しますので、どうぞ参りください。

●日時 三月二十七日～二十九日

日 時	午後一時半～	午後七時半～
二十七日(日)	法話	法話
二十八日(月)	法話	法話
二十九日(火)	法話	

●講師

祖父江 圭乃 先生

二十七日～二十八日昼席

名古屋市 有隣寺住職

お祖父様は説法師として人気を誇った祖父江省念を奉えしよ
うねる「九〇五年～九六六年」。愛知淑徳大学文学部国文学科
を卒業後、約2年間ラジオ局アナウンサーとして勤務。二〇一
〇年にお父様が急逝し、有隣寺の代務住職となり、二〇一
一年に住職となる。また昭和の名人と
謁わられた祖父のようになるべく、説
法師として全国各地を飛び回ってい
る。



(ホームページ「地獄の名言」より引用)

法座予定

二〇一六年



●皆作法要

六月二十四日～二十六日

講師 松月 博宣 師

九月二十八日～三十日

講師 伊藤 元 師

●秋彼岸法要

二十九日夜 落語会

●ご正忌・報恩講

十一月二十九日～二十四日

長倉 伯博 師

行事予定

●上高屋仏教婦人会追弔会

3月21日(月・休日)午前10時半

●念信寺同朋会

4月13日(水)午後1時半より

●本願寺仏教講座

第2回3月31日(木)伊藤元師

第3回5月9日(月)島潤二師
行橋商工会議所 3階 午後1時半～3時半
聴講無料、どなたでも聴講できます

弘ちゃんの独り言

農作業と安全

朝のお勤めの最後に、阿弥陀様を見
上げ3分位じっと見ている。最初はい
ろんな雑念が頭を過ったが、この頃は
すべてを阿弥陀様が取りはらって下さ
っているように感じられ、スッキリし
た気分で仕事にかかるようになった。

さて、農作業安全にとって1日のス
タートは大変重要だ！ 春田の耕耘か
ら田植えまで米作り農家にとって1年
で一番忙しい時期になる。この十年、
毎年農作業時に大怪我をされた方が2
6000人以上、亡くなられた方が4
00人弱、その中で65才以上の方が75
%以上もいるそうだ。

原因はトラクターでの転落事
故、草刈機による切傷、
無理な体制による転落事
故、脚立等からの転落事
故その他運搬キャリイ、コ
ンバイン事故等々である。ケガをする
と本人以上に家族の心配があり、経営
に大きく影響することは必定である。

安全の3か条は、1朝のスタートを
気分よく 2不安全状態をなくす 3
常に安全意識を持つである。

お寺の推進員研修を受け5年、仕事
1本だった自分が毎日お念佛を唱える
ことで気持ちの安らぎを覚え、気持ち
が優しくなったようだが、この経験は
自分だけだろうか！

★今年も立派なケゲモンが！山田福克氏宅お寺の駐車場横で、3月一杯は飾つてあるので、寄つてご覧になつて下さい」とのことです。

親睦懇親会を頑みて



昨年12月1日午後5時より、恒例
の門信徒交流会を開催しました。



このたびは若院の宣君も交え、お寺
の庫裡を使い、カラオケ・かくし芸の
踊り等で盛大に念信寺年末懇親会を終
えることができました。

総代OB会の集いから始め、鐘楼堂
建設委員、世話をさん、御正忌・報恩
講師にお手伝いをしてくださった方、四
年目の今回は門信徒様全員にお声をか
け、楽しく歌やかな輪を広げております。

念信寺は皆
様が集まつて
くださつての
お寺様です。
愛され、親し
まれるお寺作
りに懸命に取
り組んでいた
お寺様です。



集合写真に入つてない方が沢山おられます。
紙面をかりてお詫びいたします。

あとがき
最近、門徒さんのお見送りが多く、寺報発行
が遅れてしましました。今回の巻頭は、過疎
の問題を少しだけですが考えました。

外気温より室温が低い念信寺の冬は寒い。
待ちに待つた春がそこ迄来ています。短い間
の春を有意義に過ごしたいと思います。